

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 財団法人静岡県国際交流協会

1 事業の趣旨・目的

掛川市・菊川市・袋井市を中心とした静岡県静西地域における外国籍年少者支援を重点テーマとし、この地域で現在日本語・学習支援に関わっている学校教員やボランティアが具体的な指導方法を学ぶ「研修会」を実施する。行政・教育委員会・支援者が会し、年少者支援問題の解決に向けた連携体制や支援者に求められる資質について考える機会とする。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
6月17日	掛川市役所	岸川順子、松浦彩美、石山哲也、河原崎哲子、徳山道子、古橋哉子	研修会の内容について	各市で抱えている年少者支援の現状と問題をふまえ、どのような研修会プログラムにするか、具体的に協議した。
10月18日	掛川市役所	岸川順子、松浦彩美、石山哲也、河原崎哲子、神田明治、徳山道子、古橋哉子	研修会の運営について	研修会の運営について配布物や講師送迎、備品の確認、会場との調整など協力体制を確認した。
2月3日	掛川市役所	岸川順子、松浦彩美、石山哲也、河原崎哲子、神田明治、徳山道子、古橋哉子	研修会振り返り	研修会を振り返り、反省点等の意見交換をし、今後の協力体制について話し合った。

【写真】(研修会の様子)



3 養成講座の内容について

- (1) 養成講座名 「外国人の子どもに対する日本語・学習支援 スキルアップ研修会
～学ぶ力につながる指導方法と工夫を探る～」

(2) 養成講座の目標 子どもに対する日本語支援と教科指導を中心とし、学習意欲を高めるための教材や指導案の作成とその工夫など、指導方法について学ぶ。様々な立場の支援者が連携体制について協議し、今後の活動に活かしていく。

(3) 受講者の総数 64 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

(4) 開催時間数(回数) 18 時間 (6 回)

(5) 参加対象者の要件 現在、年少者支援活動に関わっている日本語ボランティア、学校教員、国際交流協会職員、等

(6) 受講者の募集方法 別紙①チラシを静岡県国際交流協会より県内日本語教室、ボランティアへ配布。実行委員より各市在籍の支援者へ配布。静岡県教育委員会より各市町外国籍児童・生徒担当指導主事へチラシを配布。

(7) 研修会場 掛川市役所会議室(第1回)、掛川市立中央図書館(第2回～第5回)

(8) 使用した教材・リソース 「かんじだいすき『理科・社会編』(AJALT)、「将来へ続く道」(AJALT) 等

(9) 講座内容

日時	講座名/学習内容	講師	受講者数
11月6日(土) 13:30～16:30	子どものためのおもしろ日本語授業ネタ -初期指導を中心に-	静岡大学准教授 矢崎満夫氏	46名
11月20日(土) 13:30～16:30	外国につながる子どもたちの日本語力の測定と評価	東京外国語大学留学生日本語教育センター 教授 伊東祐郎氏	39名
12月4日(土) 13:30～16:30	作ってみましょう! JSL 算数	群馬県邑楽郡大泉町立東小学校 教諭 市川昭彦氏	38名
12月11日(土) 13:30～16:30	外国にルーツを持つ子どもたちの教科学習『かんじだいすき』シリーズを使って	東京工科大学附属日本語学校 蓼沼のり子氏	35名
1月15日(土) 13:30～16:30	国語科における外国人児童への指導 -ヒントと実際	浜松市立佐鳴台小学校 教諭 櫻井敬子	32名
1月22日(土) 13:30～16:30	ふりかえりとまとめ～学校内連携について考えよう	公益社団法人国際日本語普及協会 地域日本語教育担当理事 関口明子	22名

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート 別紙②

満足度の高い研修会として大変好評だった。アンケート参照。

② 実施主体からの研修内容結果評価

予想をはるかに超える申込者があり、それだけ現場は困っているということを痛感した。受講者は全員現

在年少者支援に関わっている方ということもあり、具体的な質疑応答が毎回繰り広げられ、意見交換をするだけでも非常に参考になる、有益な研修会になった。研修会は毎回具体的なテーマを掲げて実施し、各講師より具体的に解説、教授していただいたので、明日の支援活動にすぐに活かせる内容として大変役立つ内容であった。受講生からは来年度もぜひこのような研修会を実施してほしいという意見をたくさんいただき、支援者のモチベーションの向上や教え方のレベルアップにつながる内容とすることができた。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

今回の研修会をきっかけとし、静岡県教育委員会と連携を一層推進することができた。年少者支援においては、ボランティアの協力はもちろん、学校との連携が重要なので、今後は教育委員会とより一層連携を深め、研修会を協働で開くなど、さらなる展開を進めていく。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

他地域で実施している日本語ボランティア対象の研修会に情報を提供するとともに市町国際交流協会が集まる会議等で成果と今後の展開について報告していく。

② 研修後の人材活用

今回受講した方は各地域の年少者支援の中核的な存在となることが予想される。各人が学んだことを仲間へ伝え、理解のすそ野を広げていく。受講者同士が近況を報告し合ったり、相談しあったりする仲間として連携を深めていく。

(12) 今後の課題

年少者の支援施策については外国籍住民の集住地域と散在地域によって温度差があり、市町によっては課題として認識しているものの特に具体的な施策を行っていない地域もある。散在地域にも一定数以上の外国人児童・生徒は在籍しているため、関係担当者に理解を深めてもらい、どこの地域に在住していても子どもたちが適切な支援を受けられるよう、具体的な施策に反映されるよう働きかけていくことが必要だと考える。